

その他

先進事例調査について

【出張者】

- ・ 秋田市地域公共交通協議会委員
- ・ 同協議会委員代理
- ・ 同協議会事務局

I 我孫子市建設部交通課【千葉県我孫子市】（資料 8、24～26 ページ） （調査日：平成 27 年 2 月 2 日（月））

1 送迎バスの空席を活用した高齢者等外出応援事業について

(1) 事業概要

我孫子市内の自動車教習所や病院、大学等（11 事業所）で運行している送迎バスの空席を活用し、高齢者や障がい者が気軽に買い物や通院等ができるよう外出応援する事業である。

事業所の厚意により実施している事業であり、市の予算措置は傷害保険料等のみ。

利用者（65 歳以上又は障がいをお持ちの方）は、市が発行する「送迎バス利用パスカード」をバス運転手に提示し利用する。

(2) 課題など

ア 我孫子市では、パスカードは約1,500人程度に発行し、うち利用者は20%程度かとの感触を持っているが、事業所の厚意により成り立っている事業であることから、利用者数の把握が困難とのこと。

イ 送迎バスから電車や路線バス等への乗り継ぎについては必ずしもスムーズではないとのこと。

ウ 事業所の厚意によって実施されている旨をPRしているものの、予め決められた乗降場所以外の場所での乗降を指定するなど、マナー違反も増えてきているとのこと。

(3) 感想など

送迎バスの運行コースが、路線バスや市民バスが運行していない地域も含め市全体を網羅していることへの着眼の仕方が参考になった。

利用者の利便性が高まることは確実であるものの、課題も多いことから、今後の地域公共交通全体の中・長期的な研究材料として捉えていきたい。

2 市民バス「あびバス」について（資料9、27～30ページ）

(1) 事業概要

我孫子市民が誰でも利用できる市内循環バスで、委託方式により、現在5ルートを運行している。車両は、高齢の方や車いすの方がスムーズに乗り降りでき、住宅地の中の狭い道路にも入れるノンステップの小型バスを使用している。駅や公共施設の利用、買物などのための便利な交通手段として利用されている。運賃は一律150円（大人）。

(2) 課題など

現時点では大きな課題等はないが、平成17年度の運行開始から平成24年度までは利用者数は増加し続けていたが、平成25年10月より、運賃を100円から150円へ値上げしたところ、平成25年度の利用者数は減少したとのこと。

(3) 感想など

今回の視察では運行時刻等の関係で乗車することはできなかったが、市民の大切な「足」であることは間違いないと感じた。我孫子市は全体的に坂が多く道幅が狭いという事情もあり路線バスを補完するものとして導入したとのことであり、本市に同様に当てはまるとは言えないが、市民目線での発想は今後の地域公共交通を考えるにあたり、大いに参考になった。

II イーグルバス株式会社【埼玉県川越市】

（調査日：平成27年2月3日（火））

1 乗降カウントシステムについて（資料10、31～34ページ）

(1) 事業概要

埼玉県日高市の路線バス事業に参入し、センサーを応用する「乗降カウントシステム」を導入した。車両にGPSと乗降口の上部に赤外線乗降センサーを設置し、停留所ごとの乗客数や停留所間の乗車人数、路線上で位置や運行にかかっている時間が把握できるようになった。

データから顧客が誰も利用していない運行区間や、時刻表と実到着時間の差異から遅延などをグラフ化し、顧客アンケートで得たニーズを加味したうえで、運行ダイヤの最適化を図った。これらを基にして、利用者の少ない区間の運行を必要最小限に減らしたり、利用者の多い区間や時間帯には増やしたりしている。

(2) 課題

現行の行政の補助金制度では、赤字になれば補助金が受けられるが、努力をして黒字になれば補助金がなくなり、努力分が反映されていない。この努力分の評価を行政に求めていきたいとのこと。

(3) 感想など

赤字分だけ補助金をもらうようなシステムではバス会社が経営努力をしなくなるし、黒字分は企業努力として評価してもらい、無理なところは地方自治体に公共インフラ投資としてお願いするという形が健全である、という考え方に共感した。

また、川越市は譜代の川越藩の城下町として栄えた都市で、「小江戸」（こえど）と呼ばれ、蔵造りの建物など歴史的な街並を残す観光都市である。

今回、イーグルバスが市からの委託で運行している「小江戸循環バス」に乗車することができたが、運転手が車内放送で観光案内を行うなど積極的な取組みが見られた。

地域公共交通網形成計画の策定にあたっては、まちづくり・観光との連携がキーワードになっていることから、今後は川越市の取組みについても研究することとしたい。